野田・九条通信

2005年7月20日
NO. 1
「野田・九条の会」事務局
TEL 7122-0502

七月例会の報告
「終戦60周年記念講演会」の計画決まる

毎月、第二土曜日に開かれている「野田・九条の会」の例会には、呼びかけ人を始めとして、事務局や「会」の運動促進に熱心な会員さんが集まります。

七月例会では、チューターを呼びかけ人の藤島高氏にやっていただき、話題になっている「靖国神社参拝問題を考える」と題しての学習をおこない理解を深めました。

その後、「終戦60周年記念講演会」の内容について、講演をする早乙女勝元氏との交渉も含めた事務局からの報告を受け検討しました。講演会の題名は、「もしも憲法九条がなかったら…早乙女勝元さんの講演と人形アニメの一日」と決定し、予定通り八月二十八日の午後二時開会で行なうことが確認されました。

賛同申し込み 五百人を目標に

次に「講演会」を全市民に知らせるため、意見広告チラシを市内の各新聞に折り込む計画を話し合いました。

大江健三郎氏を始めとする著名な九氏が呼びかける「九条の会」アピールが大きな反響を呼び、野田でもこれに呼応して当面五百人の賛同者を増やす奮闘をしています。この賛同者に一口五百円の協力をいただき、チラシ作成費と新聞折り込み費用集めの意味も含めた賛同者拡大計画です。

八日現在の申し込み数は二〇三名です。すでに賛同された皆さんの家族や友人にも訴えていただくようお願いします。

「そよかぜ訪看ST・九条の会」結成

現在「会」では、地域・職場に無数の「九条の会」を結成するよう呼びかけています。

南部診療所のそよかぜ訪問看護ステーションの職員五人が、「子どものために平和を守りたい」と、気軽に「九条の会」を発足させました。

活動は、「憲法」や「戦争と平和」の問題で、分かりやすく面白い本を見つけるとそれで学習をします。今度は、早乙女さんの講演会を取り組むとのことでした。

九条への想い
父の口惜しさが私の口惜しさに

森本 房子（作家）

戦争中私は、病気のため両親と田舎へ疎開していたから直接空襲の被害にはあわなかったが、ひどい食料難の栄養失調状態は戦後までずっと続いた。

昭和二十年八月十五日、放送で戦争の終結を聞いた。神国日本は絶対に負けることはない、本土決戦になっても最後まで戦うのだと信じ込まされてきたから、敗戦とか終戦を考えることはできなかった。その時はただ唖然としていた。自らの判断以外は何事も信じないという想いは、その後になって徐々に胸の底に蓄積されていった。

作家だった父は、戦争に反対の立場で信念を曲げなかったから、筆を折るより仕方がなかった。そのため困窮の暮らしが続いていた。父の口惜しさが私の口惜しさにもなっていった。

戦争は言論を徹底的に弾圧する。人間の生活を破壊する。この教訓を私は絶対に忘れない。同時に、他国に与えた惨酷と被害をも決して忘れてはならないと思っている。

賛同者拡大
奮戦記

◎「野田・九条の会」呼びかけ人の武智多恵子さんは、自分となんらかのつながりがある人に声を掛け、これまでに二十五人の賛同者を増やしました。多くの人は、野田に「九条の会」ができたことを喜んでくれ、すぐ申込書に書いてくれたとのことです。

武智さんは、「今年は被爆60周年、二度と繰り返してはいけないと考えたとき、靖国問題も憲法九条もみんな結びつく。今回は自分が立ち上がっただけではだめ、自らが一緒に成長しながら九条の会を育てたい。」と話してくれました。

◎賛同者の一人松本昌子さんは、お店に来る知人に訴えて十四人の賛同者を増やしました。

「私は、『憲法九条があってもイラクに自衛隊が行くようになってる。これでもし九条がなくなったら日本はどうなるのか』と話しかけながら賛同者を増やした。」と松本さんは語ります。